

西岡 奈緒子「神奈川県」

海辺の生活

「生きているのがつらいです」

中学生の私は、ハガキに自分の想いを綴った。学校生活に馴染めず、将来への漠然とした不安に押しつぶされそうで、なんで生きているのだろう、と悩んでいた。誰かに聞いてほしかった。

日曜日の夜、FMから流れるDJの声と音楽で部屋が満たされるのが、わずかな楽しみだった。

「今日は最後に中学生のFさんからのハガキを紹介します。『生きているのがつらいです』というハガキをいただきました。これは自分の顔かな、女性のイラストが添えられています」

私のハガキが読まれた。

「Fさん、最近、五分以上、空を眺めていますか。学校や塾以外にも世界はありますよ。僕はFさんに生きてほしいな」涙が溢れてきた。波の音が聴こえる。この番組は「海辺の生活」という。

何日かして、郵便物が届いた。番組に何の連絡も来ないから心配している、とディレクターが番組を録音したカセットテープを送ってくれたのだ。私はすぐに返事を書いた。顔も知らないのに、私のことを想ってくれる人がいる。嬉しく感じた。

数週間後の放送で、私のハガキに寄せられたリスナーの声が取り上げられた。数多くの声が寄せられたそうだ。一人ひとりの言葉を聴きながら、ラジオの向こうにいる人たちの笑顔を想像した。

生きているのがつらい。すぐに笑顔になることはできないけれど、誰かが悲しむのは見たくない。もう少し生きてみよう。空を見上げた。空は私を想う人とつながっている。そう思えた。

「海辺の生活」の満さん、リスナーの皆さん、お元気ですか。二十年以上たった今、たまたま空を眺めることはあるけれど、私は生きているのが楽しいです。

